

小田原史談

第88号

発行所 小田原史談会
小田原市西栢山3310

酒匂石器土器収集報告及び

古代の酒匂考察

◎初期相模国府庁酒匂説

相模国造りの時期、初期国府を高田に置いた高田府中説に異論は無いが本格的な条理制を持つ高田府中に酒匂に国府の庁が置かれたと考えられる。

天平七年(七三八年)正倉院文書封戸租交易帳による相模の国国司は從五位上行 守 勲十二等

田口朝臣 正六位上行 介 勲十二等 栗田望臣 正六位上行 椽 勲十二等 酒波人磨

とあり守田口朝臣、介栗田朝臣は遠く都にありてその実務はこの地方の豪族酒波人磨が当った。そしてその政庁の場を酒波人磨の館内又はその近辺に置かれたと考えられる。

私はこの館跡を中宿に当

ている(通称は中市場、通称の中宿は川端南・北と云う)土器、石器、古代瓦の分布図及び酒匂地形より判断して酒匂氏館跡の相定図を作ってみました。

東の境界を 山王社(長栄寺)十二天 北の境界を 十二天(悪水堀)添って 西の境界を 通称三軒家(旧中輩寺) 妙蓮寺東

南の境界を 海岸(但し林病院(旧南蔵寺)山王社) この中宿南北地区内には

小田原市文化財指定の年号明記の古塔、小島氏の宝篋印塔徳治三年(一四〇八)天文二十一年(一五五二)と五輪塔天正二年(一五七二)のある古瓦の出土する大見寺や酒匂右馬頭開基に

よる五輪の大塔三基(右馬頭位牌あり碑面に維元年(一一七一)七月七日往生、当時開基大檀那酒匂右馬頭弘阿弥とある)樹令千年以上もある大乳銀否がある上輩寺や古は福田寺と云い東鏡に記す頼朝の御台所安産のため相模十五社寺に神馬を捧げし古寺。

南蔵寺(現位置は明治初期移転、旧寺跡は南中宿山王社西側)新編相模風土記稿記載の旧家酒井五郎右衛門、小島徳右衛門、鈴木大学が祖、鈴木新左衛門、名主村役を長年務めし山崎家、林家、川瀬一門、脚大尺の川辺家等

由緒ある旧家が軒をならべており、昔よりこの地区は本宿と呼ば

れていた。又家号を田中屋と云い坂田金時山姥伝説ゆかりの旧家石塚義雄氏宅がある、田中屋の墓所は南蔵寺で菊の隠し紋を彫った古塔(一つは年号不明の風化している古塔いま一つは江戸期のもの)二基がある。

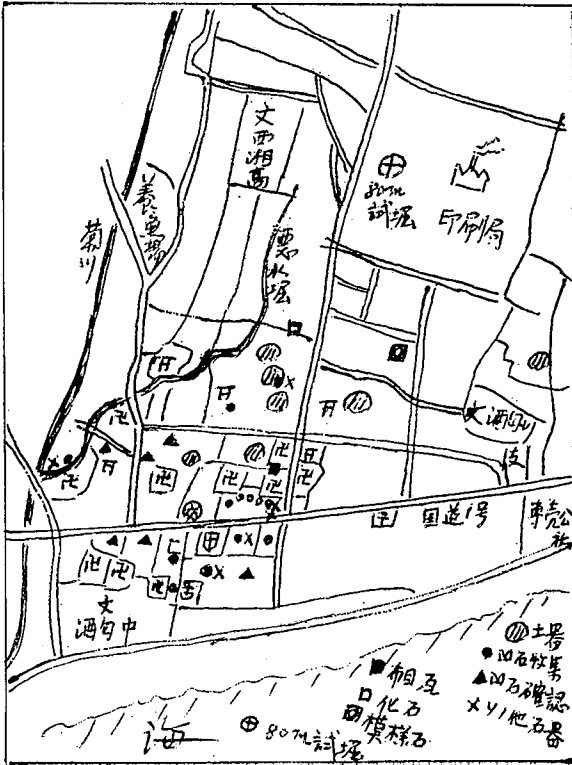
私の戦友加藤誠三君の実家が茅ヶ崎矢畑六十九番地にあり、代々熊沢権兵衛の名乗り現当主熊沢弘道氏は醬油醸造を三、四百年も前より営んでいる。熊沢家は四方堀、土塁に囲まれた広大な家敷である(今でも北一面に堀、土塁が残っている)家敷内に墓所があり

菊の隠し紋が彫られた古塔が数基ある。

熊沢家は南北朝時代、南北朝方縁りの旧家で終始南朝の為に箱根竹の下の役や山北河村城籠城と戦って来た酒匂氏も南朝の為によく戦い河村城籠城以後その家名消えた。思うに石塚家は戦に敗れし酒匂氏か変えた家名か、或は酒匂氏ゆかりの深き家かも知れない。上輩寺の西隣りに石塚家の持畑があり畑の中に二基の五輪古塔があり、云い伝へによると酒匂右馬頭の従者の墓と云われており、この周辺より土器片が散出する

話が少の横道に逸れたが、天平十年(七四一)法隆寺文書によると、和戸郷五十戸が法隆寺の寺領となつたとある。

この時期に本格的に国作りが行なわれ、酒匂台地では狭まざる、そこで酒匂の北方台地高田に条里制を伴った国府を造った。新庁舎造営移転に伴ない酒匂庁舎に使用していた瓦を利用した。当時瓦は貴重であり、新庁舎造営には多大の費用がかかる、或は建物共々移転したかも知れない。高田府中跡の出土瓦と酒匂出土瓦が同種であり、酒匂

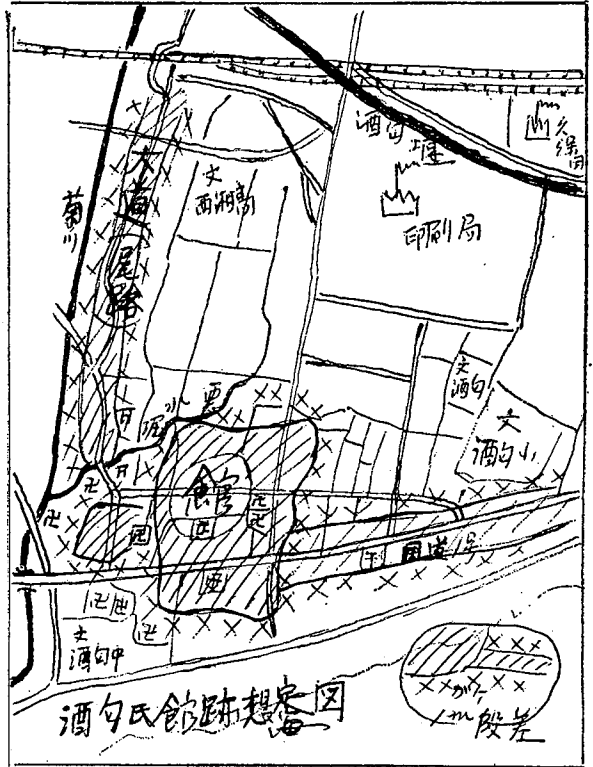


地区よりの出土瓦の少量なのはこの為と考えられる。

一郷寺領、神領となれば租税より役を緩和し、その管理主(莊園主)となれば多大の利がある。酒波人磨従五位昇進と合せ考える時國造りの功に依る恩典で酒匂郷が法隆寺の莊園となり酒匂氏が園主となり栄えたのではなからうか。

当時の酒匂郷を巡礼街道(国鉄貨物駅、小田原青果市場)に想定している説もあるが、私は貨物駅の建設工事現場及び青果市場整地現場に工事中数度に渡って視察した。しかし、何等それらしき出土品を発見出来ず、又酒匂塚を小八幡神社裏より下府中小学校西まで逆行し川の両岸、河底と調査したが、ここでもそれらしき遺品を発見出来なかった。酒匂郷はやはり酒匂中宿川端の台地で、これに連なる北方への台地大道(昔は尾路ではなからうか)を通じて中里、千代、永塚へ、又西に転じて鴨の宮、飯泉へ、東方への台地は松原、高浜台を通じて小八幡国府津へと通じていたと思う。

酒匂郷を巡礼街道とする



説は高田に府中が置かれた一時期、和泉、鴨の宮(府中)国府津と通ずる道順よりの想定した誤りであろう。首庁が酒匂から高田に移れば道順上海岸ぞいの酒匂へ回る必要は無い、従って色々論議されている小総の駅も酒匂ではなく国府津か前川辺と思う。

④中世以後
奈良、平安朝時代の古文記録により相当古い時代より酒匂が開けていた事は間違いない。
中世紀鎌倉時代は東鏡や東海紀行、源平盛衰記等に見られる様に酒匂に、宿駅

があり最も華やかな時代であった。しかし後北条氏時代以後は宿場を小田原に委ね街道の寒村となり、わずかに酒匂川河越えにてその所在が知られている。しかし中世、近世にかけての遺品か?五輪塔、宝篋、印塔や酒匂神社の狗犬屋根の棟石基礎石等幾多の遺跡物が存在し、又数多くのなぞを秘めている。例えば道祖神の石標八ヶ所(昔は七ヶ所、通称川端、横町、三軒家、中宿、中市場、大市場、南市場、終戦後松原が新設された)があるが、いずれも明治二十年以後の自然石(昭和

和製の塔石二個)で、近隣の村々に見られる姿像や家屋形石などは皆無で五輪塔宝篋印塔の部分石が多数数納されている。
中世以後の遺品照会研究は後日の課題として今回は省略する。

七、後記
遺跡物収集に村内を歩き廻って酒匂の里の素晴らしさを痛感致しました。
浜御所跡の草原、まき子川枯芦の河原に立ちて眼をとざせば松籟波瀾のさややかに、連歌橋夕照の古歌頼朝、梶原の主従馬上連歌の

景観が彷彿と浮び来る。
この素晴らしき酒匂も近年開発に汚され昔を偲ぶ姿の消え行くは淋しいものである。開発発展と古跡保存は仲々両立しがたき問題であるが、地区全般の問題として考えて行かなければならぬ。
遺跡物収集中史跡を偲びて
連歌稿惜詠
連歌妙詠素波瀾
鞠子沼湖幾變更
詩情也夢水寒々
鶯鳴啾々渡微声
盲蛇におじずで思い付く
まゝ勝手な解釈をして諸先生のお叱りは覚悟して居ります。

禅林奇談

西山 銈太郎

(二)

遺跡物収集に何かと便宜を計り協力下さいました酒匂地区の皆様。色々と御指導下さいました酒匂郷土研究家和田次郎先生、川瀬春雄先生、私の尊敬している小田原郷土史家立木先生、内田先生、酒匂出身県会議員川瀬岩次郎先生に深く感謝致します。
尚今後も収集研究を重ね酒匂郷土研究の一助となれば幸これにすぎません。
今後何とぞ御指導をお願いし酒匂地区の遺跡物収集報告と致します。
昭和五十二年十月
鳳山 川瀬速雄記す

三、不動尊の発見

瑞雲寺では曾我谷津に、神保一族十戸の檀家がある。文政年間の記録では七戸である。新編相模風土記稿に依ると、瑞雲寺五世梅叟梁木を開山として竜谷山正泰寺が創建された。その卒年から天正年間又はその直前の事と推定される。古老の伝える処に依ると、今日曾我谷津宮の台に残る地名の寺屋敷にあった。二百年程

の後廃寺となり、神保一族十五〜六戸の檀家は、一部は法輪寺へ、一部はその本寺瑞雲寺へと別れた。瑞雲寺へ移った一族は、今大山の不動尊の前不動が、剣沢の今日尚伝はる「前不動」の地であった、それを持って来て瑞雲寺庫裡東側に安置した。
今大山の不動尊は、曾我兄弟が父の仇を討つために願文を納めた有名な不動尊である。此の前不動は高さ

約三十cm、横約二十cm程の石に刻んだ座像で、西行法師の開眼になり「力不動」と呼ばれた。曾我兄弟は、剣沢の滝に打たれては此の力不動尊に一心に大願成就を祈願した。

瑞雲寺境内に祭られたこの不動尊像は、大正十二年九月一日の関東大震災で行方不明になってしまった。

震災直後のどさくさしている十月には、行方不明の不動尊を探す余裕もなく、庫裡は元の附近に建てられた。爾来此の不動尊像は次第に忘れさられつつあったが、住職一家では大変残念に思い、仮に石を立てて開眼し、「お不動さん」として祭って来た。

今日まで何回か発掘を考へなくもなかったが、確実に埋没箇所が判明してない為め遂々延引されて来た今回の庫裡建設の機会を逸しては、永久に忘れ去られてしまふから是非探そうと計画した。

庫裡の建設は第一期工事も終り、いよいよ第二期工事に突入した。古い建物を取り壊し、ショベルカーを用いて二日間の予定で、不動尊像探しと排水管坑の掘削に着手した。若し不動尊像が発見されない場合には三〜四日間に及んでも工事計画に支障ない様立案した

先ず第一日午前八時、この附近に安置されたので、転げ落ちるにはこっちの方向かと、斜面の角度を考えて作業を開始した。私は目を皿の様にしてみた。運轉者は親切で、土をあけた時には少しづつあげ、大小の石を選り分けた。私は一寸変った石は、手で、或は木片で泥土を拭い去ってたし

かめた。轟々たる響をたてての作業は続けられたが、九時半を過ぎても判らない程五〜六米、深さ二米余りの大穴が掘れて、傍へ土を置くのに困る様になったので、穴の中で右に左に盛り替へをした。それでも出て来ない。十時近くなったので一休みだと思いつつ、此の位探してもなければ、もう次へ移ろうかと思つたら偶然ショベルカーのエンジンが止ってしまった。私は何気なく大きく掘られた穴の中に飛び下りた。穴の回りには二十名程の人々が見ている。

右に左に盛り替えられた泥土の中腹に、小さい泥のかたまりがある。くさい泥の土くれだらうとは思つたが、念のため両手で泥をとり始めた。何だか只の泥のかたまりでもないらしい。然しべっとりした泥土をいくら落しても石の肌は出て来ない。やがて左手の指先

にホンのちよっぴり「縦の線」を感じた。私は「これだ」と思った。不動尊の右手の剣を想像した。もう一度その直線を拭つた。直線はもう少し長かった。「あつた」と叫んだがそれは声にならなかつた。泥を落す程に、徐々に、然も確実に不動尊像はその姿を現わした。時に七月二十五日午前九時五十五分だった

水道の水で洗つたが、五十四年間泥土の中だった石像の僅かのくぼみにつまつた泥土を洗い落すには手間がかかつた。去る三月十五日弁天さんの目玉石が発見された時、此の様に不動さんも見つければいいですがねと住職と話した。恰かも火曜日の友引だったので、火の友を呼ぶと解釈出来るから、炎を背負つた不動さんは必ず出ますよと云つた。然しその確信の程は必ずしも100%ではなかつた。当日の準備の為め、今日迄の仮不動を移す際に、「明日は是非本当のお姿を現わして下さい。」と心からの願いと祈りを込めて向けた其の真正面の地下から発見された。

石の不動尊像は、峻厳にして犯し難き氣指を有し、如何なるものをも射抜く様な鋭い眼眸を備へながら、頬のふくよかな慈愛に満ちた座像である。源平時代の昔のお姿は、震災前の様に庫裡東方斜面に、庫裡裏の池の方へ向けて前置される事になつてゐる。(瑞雲寺責任役員)

小便小像

額田喜代春

小便小僧の話は、世界中至る処であるようであるが、最初に建てられたのはベルギーの首都ブリッセル市役所の近くのカンの木通りに建てられたのが始まりらしいが日本のより大きく55cmあるというが、この話について私の知っている限

り次に述べてみましょう。(1)ベルギーの小便小僧 (2)日本の小便小僧 (3)小田原の小便小僧

り次になつて、王子が寝小便をしたので、尊い王子様でも寝小便をすることがあるのかと兵隊達が大笑いしたので、このあまりにも大きな声に敵軍はベルギー軍は大勢いと感じて、後退しだした。処を攻撃を加えて大勝利を取めたという、その記念に小供の像を建てたという。

(n)：前記の戦争の時、ブリッセル市に爆弾が落とされ、大人達が逃げまどう中つかつかと馳せよつて、ジャージャーと勇氣を振つて火を消した。

(o)：ある若殿が王宮を脱け出して迷子になつたので家来達が八方捜がしてゐると、若殿がゆうゆうと道端で立小便の最中であつたので大人達は安堵してその無邪気な姿を記念として像を建てた。

(p)：行儀の悪い坊やが何時も道端で立小便をやつてゐるので、神様が怒つて、化石にして仕舞つた。以上は今から五百年以上前の古い昔の伝説である。

(q)：小田原の小便小僧 昭和二十五年十月五日帝展審査員柴田佳石先生作 今は亡き十一代隊長剣持銚太郎氏が東面戦争で日本が敗戦となつて、国民の殆んどが虚脱状態となつていたので、剣持さんと私が相談して、ベルギーで人気者になつてゐる小便小僧の心を通して呼びかけようではないかと話が決まり、私が東京の柴田先生をお訪ねして鑄造されたもので、落成と共に剣持隊長作詞による次の小便小僧の歌を百三十有余の職員と共に小僧の前で誕生をたたえたものである。

(r)：ある若殿が王宮を脱け出して迷子になつたので家来達が八方捜がしてゐると、若殿がゆうゆうと道端で立小便の最中であつたので大人達は安堵してその無邪気な姿を記念として像を建てた。

(s)：行儀の悪い坊やが何時も道端で立小便をやつてゐるので、神様が怒つて、化石にして仕舞つた。以上は今から五百年以上前の古い昔の伝説である。

(t)：小田原の小便小僧 昭和二十五年十月五日帝展審査員柴田佳石先生作 今は亡き十一代隊長剣持銚太郎氏が東面戦争で日本が敗戦となつて、国民の殆んどが虚脱状態となつていたので、剣持さんと私が相談して、ベルギーで人気者になつてゐる小便小僧の心を通して呼びかけようではないかと話が決まり、私が東京の柴田先生をお訪ねして鑄造されたもので、落成と共に剣持隊長作詞による次の小便小僧の歌を百三十有余の職員と共に小僧の前で誕生をたたえたものである。

◎小便原の歌 (新炭坑節) 作詞 剣指銚太郎 小田原の首に名高き 箱根口 小便小僧が ニコニコと 朝な夕なに 客招く サノヨイヨイ

(1) 悠久ここに 六百年 北条早雲 城の跡 今白梅の花開きや 自由の鐘で 夜が明ける サノヨイヨイ

(2) 小田原の小便小僧 昭和二十五年十月五日帝展審査員柴田佳石先生作 今は亡き十一代隊長剣持銚太郎氏が東面戦争で日本が敗戦となつて、国民の殆んどが虚脱状態となつていたので、剣持さんと私が相談して、ベルギーで人気者になつてゐる小便小僧の心を通して呼びかけようではないかと話が決まり、私が東京の柴田先生をお訪ねして鑄造されたもので、落成と共に剣持隊長作詞による次の小便小僧の歌を百三十有余の職員と共に小僧の前で誕生をたたえたものである。

(3) 小田原の小便小僧 昭和二十五年十月五日帝展審査員柴田佳石先生作 今は亡き十一代隊長剣持銚太郎氏が東面戦争で日本が敗戦となつて、国民の殆んどが虚脱状態となつていたので、剣持さんと私が相談して、ベルギーで人気者になつてゐる小便小僧の心を通して呼びかけようではないかと話が決まり、私が東京の柴田先生をお訪ねして鑄造されたもので、落成と共に剣持隊長作詞による次の小便小僧の歌を百三十有余の職員と共に小僧の前で誕生をたたえたものである。

福したものだあった。

小僧は朝から晩まで休む

ことなく臆面もなく澄んだ
きれいな小便(水)を垂れ
ながら、ニコニコと無邪気
な笑顔で此処を通る十数万
のお客さんに愛嬌をふりま
いている。このような可憐
な姿をみた幼ない子供達は
殆んどが小僧の前に釘づけ
になって動かない、これを
みた大人達までが、ニヤッ
としている姿は実になんと
もいえない。しかしこのよ
うに人々から、愛し親しま
れていた小僧も昭和三十五
年八月に、十年という永い
歳月を休みなしで小便を垂
れてきたためか、小便つま
りの病に罹ったので、製作
者の柴田先生の下に入院、
漸く一ヶ月ぶりで濃いグリ
ーン色の、いかにも健康そ
うな勇姿となって再び、十
四代目の養い親豊田幸太郎
駅長の許に還ってきて、前
にもまして、ジャージャー
と無遠慮に小便を垂らしな
がら愛嬌をふりまいてい
る。どうか今は亡き座みの
親剣持さんを忘れないでく
れよ。

それから翌昭和二十六年
三月に小田原市板橋在在の
石材間屋高助さんの協力に
よって小僧の周囲に箱根灯
籠と庭木が添えられたこと
により、和洋合併の庭園が
造られ、国鉄の名物として

内外に其の名を高揚された
のも宜べなるかなである。
なお小僧についての笑話
を二つ紹介しましょう。

(1)……或る時一人の老人が
駅長に「家の女の児が駅長
さん不都合だ、男の子の
像ばかり建てて、なぜ女の
子の像を建ててくれないん
だ。男女同権の世の中に真
に不都合極まると文句を言
つてこまる」と申入れてき
た。

駅長曰く「小便小僧がた
れている池が面白く出来て
いるではありませんか」と
いやみのないあらわし方が
したり顔の老人はそそくさ
と背を丸めて帰って行っ
た。(池の形は蛤形)
(2)……或る朝小便小僧のシ
ンボルを折った話。
或る日のこと、小便小僧
のシンボルに、青苔がつい
たので洗っていた若い駅員
が過って、小僧のシンボル
を折損してしまつた、あわ
てのか、駅員はシンボルを
空に向けて上向きにつけて
しまつたので、今まで下向
きにたれていた小便(水)
が空に向って走りだしたの
で、みていた大勢のお客さ
んがいっせいに、くすくす
と笑ひだしてしまつた。た
またま通りかかった粹な駅
長曰く「朝だものな！」と
若い駅員をなぐさめていた

【注】マネケンピスとい

うのはマネケンの子供の意
義、ピスは小便であり、何
れもベルギーの主要人種で
ある。フランス人種の言葉
だそうです。

そのベルギーのマネケン
ピスの像は当時の有名な彫
刻家デユクスノア氏が作つ
たブロンズ製のもので、そ
の小便をしている姿が如何
にも自然であり、朗らかな
もので、いつ見ても見飽き
がしない情熱とベルギー人
の今に変わぬ民主主義の強
烈な香りをたたえていてと
いうことを聞いて、当時
戦争に敗けて、放逸状態に
あつた日本人の心に何か刺
戟をあたえることになるだ
ろうということで、小便小
僧の建立にふみきつたので
あります。

昭和二十七年十月十四日
小田原駅より約二ヶ年おく
れて、鉄道開通八十周年を
祝つて十二代駅長椎野栄三
郎氏の時、南行ホームは京
浜東北と山手両線が併用で
運転されていたので使用さ
れず、草がボーボーとはえ
ていた、そのホームの中央
附近に建設されていたが、
昭和三十一年京浜東北と山
手両線が分離南行ホームを
使用するようになり、又昭
和三十九年に東京モノレール
が建設され、中央に連絡
橋が新設された昭和四十二

年に現在の位置に移転され
たのである。(椎野氏は小
田原市前川在住)
小僧が建設された動機は
国鉄八十周年に当たり、国鉄
あげて旅客サービス向上運
動が行なわれることになつ
たのを機会に戦後の荒廃し
た社会で車両も駅舎も亦す
さんだ人心の中で少しでも
お客様を慰めることが出来
たらと考へ、椎野駅長が個
人的に懇意にしていた駅前
の小林光氏に相談した処、
同家に祖父の代からあつた
小便小僧を、こんな物でも
役にたつならと持ちこまれ
たもので旅客から非常に喜
ばれたという。
それから昭和四十三年一月
十八日に現在のものが竣工
して正式に国鉄の財産とな
つたのである。

こと、処が国鉄は現在赤字
財政で悩んでいる際、いか
に人気者の小便小僧のため
とはいいながら無尽蔵に水
を使用するわけにはいかな
い、そこで循環式に何回で
も水が使えるようにしたい
と言つておられたが、たま
に酔つぱらい客が、この水
を飲むので困つたものだと
悩んでいたようであった。

(4)青森駅の小便小僧
青森駅といえ最近映画
で「八甲田山」や「津軽海
峡冬景色」で歌のヒット等
で何かと話題になつてい
るが今回、駅前広場に工藤
長が小公園を設けて池に小
便小僧と跨線橋の一角に小
鳥の家を作り鉄道マニアに
話題を提供しているそう
である。そして両方共先頃完
成したので小便小僧と小鳥
の家の名前を駅職員から募
つたところ、それぞれユニ
ークな愛称がよせられ、工
藤駅長等が審査の結果、小
便小僧には「青森太郎チャ
ンク」、小鳥の家には「駅鳥
室」と名付けられ、駅を訪
れる人々の人気を集めてい
るそうであるが、前記の小
田原の長男、浜松町の次男
青森の三男共に健在で駅と
共に永生きして訪れるお客
さんに冷気を贈つて下さる
ことを紙上からお願いま
すよ。(元小田原駅助役)

こと、処が国鉄は現在赤字
財政で悩んでいる際、いか
に人気者の小便小僧のため
とはいいながら無尽蔵に水
を使用するわけにはいかな
い、そこで循環式に何回で
も水が使えるようにしたい
と言つておられたが、たま
に酔つぱらい客が、この水
を飲むので困つたものだと
悩んでいたようであった。

秋までは富士の高嶺に見
し雪を分けてそ越ゆる足柄
の山 家隆
越えやらでけふは暮しつ
足柄の山陰遠き岩の崖道
光成
行く来も跡もさながら埋
れて雲をそ分くる足柄の山
広房
足柄の山立ち隠す霧の上
に独り晴れたる富士の白雪
慶運
如何にせん直には往かで
足柄のよこ走りする人の心
仲正
関の戸も松の下ゆくあと
絶えて雪にゆるさぬ足柄の
山 為家

足柄山の歌

秋までは富士の高嶺に見
し雪を分けてそ越ゆる足柄
の山 家隆
越えやらでけふは暮しつ
足柄の山陰遠き岩の崖道
光成
行く来も跡もさながら埋
れて雲をそ分くる足柄の山
広房
足柄の山立ち隠す霧の上
に独り晴れたる富士の白雪
慶運
如何にせん直には往かで
足柄のよこ走りする人の心
仲正
関の戸も松の下ゆくあと
絶えて雪にゆるさぬ足柄の
山 為家

若芽も萌え暖かくなりま
した 史跡廻りに会合に御
出かけ下さる様御待ちして
居ります編集部として各部
落にわ特有名面白い歴史が
沢山あると思ひますので原
稿を御願ひ申し上げます
五十三年度にわ予定の会報
を出したいと思つて居りま
す 尚投稿を下さる方は原稿
用紙を用いて下さる様御願
ひ申し上げます 原稿を頂
いても着順でなく発表の前
後する事があります紙面
の関係でやむなく致します
ので御了承下さい

編集部より